

NJ素流協 News

令和7年6月10日
第245号

令和7年6月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

ノースジャパン素材流通協同組合 第22回 通常総会を開催

NJ素流協は5月26日、第22回通常総会を盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて開催し、来賓、組合員等約140名が出席した。

1 開会・理事長挨拶

横澤孝一副理事長の開会の辞に続いて、鈴木信哉理事長が次のように挨拶した。



鈴木理事長挨拶

「お忙しい中、当組合総会にお越しくださり、ありがとうございます。令和6年度は、委託販売を含めた取

扱数量が約57万³mとなり、やっとコロナ前の水準まで回復してきました。ひとえに組合員の皆様のご協力に感謝申し上げます。そして、納入先の皆様にもご配慮いただき深く感謝申し上げます。

さて、今、国産材時代を迎えていますが、当組合は山元の素材生産業者、運搬業者から、川中の加工工場へ丸太を届けるマッチングの仕事をしております。この中で経由されるお金の流れは、中山間地の経済にプラスになっているのではないかと考えております。今後ますます、川上の人達と川中の人達とをマッチングさせ、Win-Winの関係になれるよう様々な情報伝達をして、皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

また、木材は、米や肉ブランドのような〇〇県産〇〇といったような県vs県が対抗する売り出し方とは異

なります。林業・木材産業は鉄、アルミ、プラスチックといった他の資材が対抗相手です。他の資材をいかにして、もう一度木材に戻していくかが課題だと思っています。併せて、外材に対抗することも我々の仕事だと思っています。新設住宅着工戸数だけに注目するのではなく、いまだ半分近くのシェアを持つ外材をいかにして国産材に変えていくかが極めて重要なポイントです。そういう意味で、我々の仕事は、他資材、外材に対抗する視点でもう一度見直して、ありとあらゆる情報を届けたいと思っていますので引き続きよろしく願います。

2 感謝状贈呈者・表彰披露

令和6年度の当組合の取組みにおいて多大な協力と貢献をした組合員に対して、感謝状と記念品を贈呈し、感謝の意を表した。

【感謝状贈呈】

▽出荷量伸び率 上位者

当組合の共同販売事業に特に貢献して頂いた、一定量以上の出荷量で、前年度比の増加率が大きい組合員に

感謝の意を表します。
Ai and Forestry株式
会社

代表取締役 折館 直様

杉本林業株式会社

代表取締役 杉本 嘉一様

株式会社泉山林業

代表取締役 泉山 匡恵様



共同販売事業に貢献して頂き
ありがとうございました！

▽林業用種子確保の取組み協力者

当組合が実施する林業用カラマツ種子確保の取組みにご協力を頂いた組合員に感謝の意を表します。

横澤林業株式会社

代表取締役 横澤 孝一様

▽海岸防災林再生活動における植栽用苗木寄付者

当組合が実施する海岸防災林再生活動において、植栽用苗木を寄付して頂いた組合員に感謝の意を表します。
有限会社早稲谷・菅原苗木店

代表取締役 菅原 昌樹様



林業用種子確保の取組み協力、
苗木寄付ありがとうございました！

【表彰披露】

▽林野庁長官感謝状

林業関係主要団体の役員として勤続し、かつ林業行政の発展に顕著な功績が認められ、全国素材生産業協同組合連合会創立50周年記念式典で「林野庁長官感謝状」を受賞されました。
ノースジャパン素材流通協同組合

理事 坪 晃 様

【永年勤続者表彰】

10年にわたりノースジャパン素流協で勤務

3 来賓祝辞・祝電

吉田 佳右様

来賓を代表して、東北森林管理局 局長 大政康史様(代理 次長 唐澤智様)、岩手県農林水産部 部長

佐藤法之様(代理 森林整備課総括課長 高芝俊雄様)、岩手県森林・林業会議 理事長 中崎和久様(代理

専務理事 橋本卓博様)、日本合板工業組合連合会 会長 井上篤博様

(代理 専務理事 上練三様)から御祝辞を頂いた。

4 議事

議事に先立ち、事務局から総会の成立が報告された(組合員240名中、本人出席51名、委任状による代理出席34名、書面議決書の提出151名)。廣瀬誠氏が議長に選出され、議案の審議・承認が以下の通り行われた。

▽議案第1号「令和6年度事業報告書の件」

●令和6年度販売事業

①令和6年度の共同販売事業における素材取扱数量は表1のとおり。

また、東北森林管理局における委

端数処理により計は一致しない

単位：m³

区分	合板・LVL用素材	製材・集成材用素材、土木用素材他	バイオマス発電用素材(t)	計
材 積	249,557	160,960	110,111	520,629
計画比	104%	95%	79%	95%
前年比	111%	135%	80%	108%

共同販売による取扱数量は、バイオマス素材を含め55万m³の計画に対し、52万629m³となり、計画比95%、前年比108%となった。

※ t=m³で計算

託販売はWEB入札により、4万5,913m³を販売し、NJ素流協の令和6年度の取扱総数量は、56万6,542m³(前年比107%)となった。

令和6年度は林地残材活用の取り組みとして、組合員から林地残材に関する相談を受け、納入先や納入手順について検討・チップ化を行い販売した。また、組合員会議で「林地残材出荷希望者アンケート」を実施した。

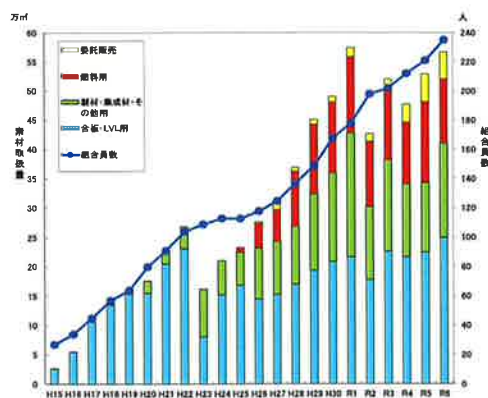


図 素材取扱数量と組合員数の推移

● 森林再生に関する事業

① 再造林基金事業の推進

「岩手県森林再生機構」の構成団体として、共同販売事業等に係る協力金については、原木出荷者（素材生産等の組合員）及び原木購入者（販売先）から徴収するとともに、当組合（原木流通業者）の協力金を積み立てた（令和6年度協力金計11,278,501円）。

また、「青い森づくり推進機構」に木材流通業者として協力金を拠出（令和6年度協力金計56万193円）。

② 低コスト再造林の促進

組合員による再造林を促進するため、組合員が行う低コスト再造林経



会場の様子

費の一部を助成する「再造林促進奨励事業」を実施した。令和6年度は、組合員6名が行った再造林面積12・21haのうち5・05ha（1組合員1・00haが上限）について助成金31万4,090円を交付した。

③ 海岸防災林再生活動の実施

仙台森林管理署との協定のもと活動している、宮城県名取市の海岸防災林『ノースジャパン100年復興の森』にて、令和6年度は、当組合で植栽した0・08haに隣接区画を加えた計0・3haについて改めて協定を締結し、定期巡視及び清掃に加えて、9月に組合員及び役職員43名が参加して、裾枝落し、つる切り、サ

クラ植栽等を行った。

● 技術指導と調査研究、情報提供に関する事業

① 研修会等の実施

・ 林業経営講座を2回、林業講演会を2回、岐阜県で現地視察研修を行った。

・ 組合員の役職員、従業員が自己の技術や知識を向上させる目的で参加した研修会等の経費の一部を助成する「自己研鑽研修助成金」について、令和6年度は11件の研修に対して助成し、助成金32万3千円を交付した。

② 技術指導

・ 合法木材及びバイオマス材の証明に係る事業者の新規認定申請者を対象に、林野庁ガイドラインの適切な運用、クリーンウッド法の概要等に関する研修会を実施し、7事業者を認定した。

・ 合法木材及びバイオマス材の証明等に係る書類や分別管理に関する訪問指導を行った。

・ 国内木質バイオマスのライフサイクルGHGに関する対応として、自主行動規範、事業者認定実施要領等

を改正した。

・ 岩手県産材認証協議会登録者が取り扱う材について、証明を行うとともに、前年度の証明実績を取りまとめて、岩手県産材認証推進協議会へ報告した。（令和5年度証明実績13,524m³）

・ いわて林業アカデミー研修生の就業体験研修では、令和6年度は6組合員が就業体験研修を受け入れた。

・ 国の新規助成事業等を組合員へ紹介し、事業の活用を指導した。

・ カラマツ種子不足の解消に寄与するため、組合員の協力のもと、着果木を伐倒し、球果採取を行った。

③ 調査研究（課題解決の取り組み）

④ N J 素流協青年部会関連

・ 第4回げんき森林（モリ）モリフェスティバルを開催し、岩手県内外から約530名の来場があった。

・ 北海道、石川県、福井県で青年部視察研修を行った。

・ 岩手県林業団体青年部連絡協議会の活動として、盛岡市動物公園ZOOMOと共同で、園内の森林整備等を行った。

●受託・協定等に関する事業

①国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会（林野庁委託事業）において、東北地区の事務局を受託し、協議会の運営・開催等を行った。

②日本政策金融公庫が行う地域連携支援事業において、課題や支援ニーズを把握するためのアンケートを受託実施した。

③災害時における応急対策業務に関する協定（岩手県知事と締結）について、令和6年度は、協力の意思表示があつた県内85組合員の名簿を県に提出した。

▽議案第2号「令和7年度事業計画書の件」

・令和7年度の共同販売計画量は表2のとおり。

【表2】

令和7年度共同販売計画量

区分	計画量
合板用素材	m ³ 250,000
製材・集成材用 素材・その他	m ³ 185,000
バイオマス 発電用素材	t 120,000
計	m ³ 555,000

t = m³で計算

・東北森林管理局等委託販売業務において素材4万5000m³の取り扱いを見込んでいる。

・再造林基金事業等、森林再生に関する事業に引き続き取り組む。

・組合員の林業技術の向上と経営改善を図るため、引き続き各種研修を行う。

・組合員の経営改善と社会的貢献に寄与する取組を行う。

・調査研究等、青年部会の活動、各種情報の提供、受託・協定等に関する事業に引き続き取り組む。

▽議案第3号「令和7年度手数料率決定の件」

共同販売の手数料については、販売代金の3・25%以内（消費税別）とする。

※今年度の手数料率は2・5%

▽議案第4号「令和7年度経費賦課金徴収の件」

賦課金を課税対象外（不課税）とする。

その他、議案第5号「令和7年度役員報酬決定の件」、議案第6号「令和7年度内借入金残高の最高限度額

決定の件」、議案第7号「令和7年度取引金融機関決定の件」についても決定された。

トピックス

東北地区原木トラック運送協議会 第9回定時総会開催

5月30日（金）、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで、東北地区原木トラック運送協議会の第9回定時総会が開催され、松田光治会長の挨拶の後、議事に入りました（来賓：NJ素流協 鈴木信哉理事長）。

議案第1号（令和6年度事業報告書及び決算関係書類承認の件）では、林野庁・東北森林管理局への要望活動・管理局職員との合同現地検討会の開催、視察研修、原木トラック補助金活用に関する情報提供・要望活動等を報告し、収支決算と併せて承認されました。

議案第2号（令和7年度事業計画及び収支予算決定の件）について、林野庁・東北森林管理局・林業関係

団体への要望活動、林道の維持管理の取組等の計画が予算案とともに承認されました。

その他、議案第3号（役員改選）、議案第4号（協議会規約の改正）が承認されました。



東北地区原木トラック運送協議会定時総会の様子

鈴木理事長が土木学会で講演

5月19日、公益社団法人 土木学会の「第15回木材利用シンポジウム」が東京都で開催され、鈴木理事長が「国産材時代の象徴丸太輸送トラック」と題して講演を行いました。

今年度も!!松くい虫被害木の取り扱いについて

アカマツ等の伐採時期の終盤です。松くい虫の拡散防止にご協力をお願いいたします。

Q1 アカマツ等の健全木の伐採時期を確認したいです

県	被害地域区分	伐採時期
青森	被害発生市町村	10～5月
	被害発生隣接市町村	10～5月
	上記以外	6～9月の間は極力行わない
岩手	被害地域及び周辺地域の標高500m未満の地域	10～5月
	無被害地域及び上記以外	通年可能
宮城	区分なし	11～6月中旬
秋田	区分なし	通年可能
山形	区分なし	10～5月
福島	区分なし	秋口以降～5月

Q2 未被害市町村の健全木の流通の制限はどうなっていますか?

A 青森県においては、6～9月の時期を除いて流通利用が可能です(他県産材の移入はできません)。岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県においては、通年の流通利用が可能です。

Q3 被害発生地域の健全木の制限はありますか?

県	制限
青森	10～5月に伐採し、3月までにチップ工場に運び、5月までに所定のチップに加工して6月までに焼却する。
岩手	10～5月の伐採時期に限り、利用・運搬の制限なし。但し、松くい虫被害拡大を防止する観点から、健全木は松くい虫により変容が生じたと見込まれる松及び松くい虫潜在被害木を除くものとしているので、被害木周辺にある立木は被害木として取り扱うようにお願いいたします。
宮城	健全木の利用制限なし。
秋田	
山形	
福島	

Q4 被害木丸太の利用条件はありますか?

県	利用条件
青森	基本的に全て燻煙処理としており、利用及び市町村外への移動はできません
岩手	伐採は10～5月の間とし、6月20日までに駆除処理を行うこと
宮城	伐採は11～6月上旬の間とし、6月上旬までに指定工場等において駆除処理を行うこと
秋田	伐採は9～5月の間を推奨。6月上旬までに指定工場等において駆除処理を行うこと
山形	伐採は10～5月の間とし、6月末までに駆除処理を行うこと
福島	伐採は秋口以降とし、6月10日までに駆除処理を行うこと

Q5 その他取り扱いの注意点を教えてください

A 例えば、岩手県の被害地域等では伐採時期により、残材の薬剤散布・玉切り等の処理方法や枝条の取り扱いがそれぞれ決められて

います。また、青森県では、巻枯らしが禁じられている地域があるなど取り扱いに違いがあります。詳細は各県所管部署にご確認ください。

素流協事務所

ウッドチェンジ!
絵画の額縁を取り付け

NJ素流協では、国産材利用促進のため、事務所内造作等のウッドチェンジに取り組んでいます。今回は、当組合応接室に飾っている絵画に額縁を設置しました。この額縁は、青森県の木工工房、「わにもっこ」様に製作していただいたものです。事務所にお越しの際はぜひご覧下さい。



Before(上)とAfter(下)

お知らせ

**国有林WEB入札が今年度もスタート！
「入力確定」を忘れずに！！**

NJ素流協では、今年度もホームページで国有林材の委託入札を行っています。入札にはログイン用IDが必要となりますので、入札を希望される方は営業企画部までご連絡下さい。素流協ホームページからID発行依頼書をダウンロードすることもできます。

また、入札に参加する際は、入札単価を入力し、最後に「**入力確定**」ボタンをクリックしてください！「入力確定しました」のメッセージが出るのを必ずご確認ください。

**必ず「入力確定」
をクリック！**



さい。

さらに、各市の物件写真撮影日が確認できるようになりました！虫害時期等は特に熟覧の上で入札いただくよう、よろしくお願いいたします。

**令和7年度地区別組合員
会議を開催します**

本年度の地区別組合員会議を別表のとおり開催します。

詳細は別途お送りしている案内文書をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	市町村	会 場
6月25日(水) 13:30~15:30	宮城県 大崎市	鳴子公民館 (ホール)
7月1日(火) 13:30~15:30	岩手県 住田町	住田町農林会館 (多目的ホール)
7月3日(木) 13:30~15:30	青森県 七戸町	七戸町総合アリーナ (研修室)
7月8日(火) 13:30~15:30	岩手県 一戸町	一戸地区センター (大会議室)
7月10日(木) 13:30~15:30	秋田県 能代市	能代市文化会館 (中ホール)

※7月10日の11時～中国木材(株)能代工場で納入見学会を開催

**11月にニュージーランドで
視察研修を行います**

ノースジャパン素材流通協同組合では、令和7年11月に、以下のとおりニュージーランドでの林業視察研修旅行を行います。

●日程

出発…令和7年11月8日(土)
帰国…令和7年11月14日(金)

●内容

伐採現場、製材工場、丸太積荷港、森林林業研修所、自然公園の視察

視察の様子等詳しい内容は、11月以降の素流協ニュースで掲載予定です。

**鈴木理事長著「気になる木」
「耳からウロコ」
集中読解本Ⅱ 発売！！**

鈴木信哉理事長著『気になる木』『耳からウロコ』集中読解本Ⅱがついに発売となりました！！

▽集中読解本Ⅱ

1冊1300円(税込)+送料

▽集中読解本&集中読解本Ⅱセット

1セット2500円(税込)+送料

申込書は当組合ホームページからダウンロードできます。皆様からの注文をお待ちしております！

**6月の樹種・材種の不足
状況について**

●集成材用

スギ4m材…当面、制限なく納入可能

●合板用

カラマツ材…当面、制限なく納入可能(虫害材は注意が必要)

アカマツ材…当面、制限なく納入可能(青変菌は注意が必要)

●製材用

スギ3m材、3・65m材、4m材…当面制限なく納入可能(虫害材には注意)

※気温が上昇しているため、虫害・青変菌の被害にご注意ください。

できるだけ、伐採後は速やかにフレッシュな状態で納入いただけるようご協力ください。

ちよつと気になる木の話

107

広葉樹の用材以外は、消えた？

— 統計から推測すると、

林地残材なのか？ —

現在の針葉樹は、かつてのA材（一般材）C材（原料材）区分から、A材、B材（合板材用・集成材用）C材（製紙用、バイオマス用）D材（バイオマス用短材、末木枝条）がある程度定着して、A材・B材で60～65%、C材・D材で20～25%は活用されている（D材は利用途上）。

しかし、広葉樹の現状は全く違うのか？と統計上は…疑問を感じる。広葉樹用材は、ウッドショック継続中であり、原木市場出品材も、かつての30cm（26cm上）から22cm（20cm上）へとA材である用材径級が下がってA材の範囲は拡大してきたと言える。

しかし、立木からの用材率は10%～20%（25%）に滞まらざるをえない状況にある。

B材は無いのかである。合板用として化粧単板や突板用はかつて今もあるが、これは逆にA材より上のS材である。でも昔の合板は、ラワン全層合板もあったよね。とすれば、強度の強い広葉樹を中芯に使用せば、より強度の強い合板用が使われるかも知れない。土台も、かつてはクリ利用が多かったことを考えれば、クリの集成土台も

ありかもしれない。そうしたらA材でないB材の用途ができ、広葉樹B材の丸太規格が出来て、C材より高い価格で取引されると予想している。他にも、例えば剥き芯のナラ等の丸棒の用途や短尺になったナラ・トチ等の短尺材利用の木箱業界、木工クラフト業界・漆器業界・伝統工芸品業界との再マッチングが可能な…と思う。

さて、本題であるが、広葉樹用材比率が低いのに、他はどこに行つたのか？すべて製紙用LPか？という数値が合わない、そもそも製紙用広葉樹チップの国産材比率は極めて低く、自給率は、おおよそ10%と10%ぐらいである。ほかにも統計上見えるのは、原木キノコ用（シイタケ原木中心）薪炭用くらいだが、その量は小さい。とすると、山に林地残材で大量に放置されているとなる。

北東北の広葉樹素材生産現場に行くと、原料材比率が高いが、道路脇に大量に集材されている。もちろん製紙用チップ工場行きもあるが、「どこに納める？」と聞けば、キノコ原木用、薪用、菌床キノコ向けおが粉工場用、燻製チップ工場用、燻りガツコ用等々である。その中でも、量が多いのが菌床キノコ用である「そうだねー！スー

パーにいっぱい並んでいるキノコの培地はおが粉中心だね。」でも、このおが粉工場ってどこにあるの？菌床製造工場ってどこにあるの？キノコ生産工場、農家（あえて林家といわない）どこにあるの？林業関係者の話題になることは、ほとんどない。それは、原木キノコは都道府県林務担当で、菌床キノコは農業担当で、が多いからかなあ？

菌床キノコも林産物で、林野庁担当なんだが…。でも、おが粉工場は全国チップ工業会（全チ連）に加盟して、そこで統計をとれるのでは…？しかし、全チ連は製紙用チップの団体といえる。うーん。もちろんおが粉工場を併設している製紙用チップ工場もあるが、単独もある。ということは、実態はつかまえていない。キノコの生産販売量から概ね推測することもできるとは思う。問題は、製紙用は皮を剥くので、曲がりとかの制限があるが、キノコがおが粉用は皮むきがないので制限は緩くなる。

加えて、ナラ、ブナ等、一定比率以上で使用したい樹種がある。とすれば、菌床用おが粉の規格と樹種別単価を定めて、素材生産者に伝達しなければならぬ。おが粉が不足して大変だという割には、この情報発信が明らかに不足している。何かが…林業と農業のはざまに埋もれている気がしてならない。

もう一つの薪も統計上の数値は全く違い、

ケタが一ケタはズレていると思われる。薪ストーブの使用率の高い県の薪生産量は少なすぎる。「ホームセンターに聞けば？」、「薪ストーブ屋さんの年間薪販売量を聞けば？」、「ピザ屋・パン屋さんの業務用薪の必要量を聞けば？」、「道の駅やふるさと納税品の薪の販売量を聞けば？」等々沢山方法がある。当組合の組合員でも、自動薪割り機を購入して販売している会社も多数ある。しかし、薪だけ作っている会社は、

どこの林業・木材産業団体にも加盟していない。そんな団体は地方にはないのである（当組合には加盟している者もいる。）統計上、薪生産が多いのは、意外にも南国の鹿児島県である。明らかに調査しやすい「かつお節」の燻製用薪である。

何故こうなるのか？薪の生産量は都道府県調べである。調べ方をキッチリ統一できていないし、薪製造者を林業の身内にしていない事が根本原因である。この広葉樹の丸太規格も素材業者には伝わっていない。この他にも素材業者に必要な規格、この情報が伝わらなければ、含水率が低く、カロリーの高い広葉樹D材もバイオマス用として高値取引されるし、先駆的に始まっている。やっつと、広葉樹A B C D材利用（80%活用）時代である。林地残材にはせず活用したい人がいたら、情報伝達・マッチング一緒に頑張らしよう！！

令和7年5月分の販売実績

樹 種	合板・L V L 用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (㎡)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (㎡)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (㎡)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	12,333	95.7	101.3	13,973	104.2	123.0	26,306	100.0	111.8
カラマツ	7,590	135.2	139.8	74	54.0	21.2	7,664	133.3	132.6
アカマツ	2,686	76.3	157.6	17	43.8	16.1	2,703	76.0	149.3
その他	15	*	*	100	31.1	102.3	115	35.7	117.3
合 計	22,624	102.8	117.2	14,164	101.9	118.9	36,787	102.4	117.8

樹 種	燃 料 用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	1,895	77.8	49.6
カラマツ	3,479	93.3	115.9
アカマツ	1,145	135.2	75.3
その他	1,003	96.9	214.5
合 計	7,522	93.5	85.4

樹 種	今 年 度 累 計			
	合板・L V L 用 (㎡)	製材・集成材・その他用 (㎡)	計 (㎡)	燃 料 用 (t)
ス ギ	25,221	27,381	52,602	4,331
カラマツ	13,201	211	13,412	7,207
アカマツ	6,204	56	6,261	1,991
その他	15	421	435	2,038
合 計	44,641	28,069	72,710	15,567
目標達成率(%)	17.9	15.2	16.7	13.0
計 画 量	250,000	185,000	435,000	120,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和7年6月の需給動向】

- 集成材、製材工場では、スギの原木不足が深刻化しており、工場在庫が極端に少ない状況！この状況は当面続く。
- 合板工場はカラマツ、アカマツが不足の状況！青変菌や虫害により在庫不足が心配される。
- 各工場、冬期間に品質の良い原木在庫を貯められなかった影響もあり、引き合いは強い傾向にある。

耳からウロコ

映画「あゝ野麦峠」から
― 女工哀史と天然更新 ―

大竹しのぶ主演の女工哀史のノンフィクション映画として「あゝ野麦峠」は有名である。少女が飛騨から信州諏訪に向かう時に、野麦峠を通過して、絹織物の製糸工女(まゆを煮て生糸を取る)として働く物語である。この映画は、角川映画に触発された仙台市で日本コンピュータ学園を設立し、東北電子計算専門学校を興した持丸真二氏が異業種から映画会社を設立して、制作したものである。

さて、野麦峠の野麦とは何のこと？野麦とはスズタケ(篠竹)で別名「クマザサ」である。クマザサとは、「熊」ササではなく、「隈」ササで、笹の葉の縁が白いのが特徴である。目に「クマ」ができた「アレかあ？」このクマザサは数十年に一度枯れる。枯れる前に花を咲かせ実をつける。この実を粉にして麦の代わりにして食べたことから、自然の麦「野麦」となったんだろう。この数十年に一度のある意味野麦豊作の年は、穀物が不作の大飢饉の年と重なるという。よって、救荒植物と言わ

れたという。この飢饉の時に人を救ったクマザサが広がっていたことが、野麦峠の命名の由来かなあ。現在も野麦街道として、自然豊かな景観を誇る観光道路である。

そこで、一帯がクマザサに覆われると、樹木の天然更新が上手くいかないのは、種が落ちて光が当たらず、成長できないからである。人工造林しても、このササの下刈りは大変である。東北・北海道のチシマザサ地帯と一緒に。ただ、チシマザサは根曲竹(姫竹)と呼ばれ田舎の料理として価値がある。なんと!!学名上、イネ科、タケ亜科ササ属である。そうかイネ科か。クマザサもイネ科である。

こうなると、「尽山になりけり」と言われた天然木曾檜、天然秋田杉の林齢が一緒なのがわかるよね！地表を完全に覆っていたササが枯れたのだから。

野麦として、飢饉の山村住民の命を救うだけではなく、次の世代の山村住民の林業収入を確保したのである。この当時の女工哀史は、軍事費を稼ぐため、絹織物の輸出による外貨獲得が重要だったとの歴史観であるが、第二次世界大戦後の日本の復興も野麦峠で再生した天然林の木材が日本を救ったと言えるのかなあ！

野麦峠で思い出すことでした。